



## 我道一以貫之

会長 鈴木 末一

コロナ禍が収まらないなか、新しい年を迎えました。今年では会創立20周年、成人の年であり、ならやまプロジェクトの15周年です。記念すべき節目の年にあたり、会の歴史を再確認し、さらなる発展の道筋を見つける年にしたいものです。

顧みますと、当会は2001年9月24日、大和の自然をこよなく愛し、自然環境保全活動に情熱を傾注する45名の先達の皆様方が一堂に会し、初代会長川井秀夫氏のリーダーシップの下に力強く呱呱の声を挙げられたのでした。全員がシニア自然大学校での研修を深められてきただけに、理論と実践の狭間ではそれ相応の葛藤が繰り広げられたと仄聞しています。この際、ならやまプロジェクトの略史を振り返ります。

当会は、東海自然歩道自然観察会、生駒市西畑町の棚田の復活整備、柳生忍辱山国有林の間伐体験活動などに勤しむ日々を重ねる中で、日本の原風景である里山林の景観形成整備保全に取り組める本格的な活動拠点を探求する声が増しに高まっていた。2006年、奈良県風致保全課(現在の景観・自然環境課)が、ならやま里山林の景観形成整備保全活動ボランティアの公募をしているのをキャッチし、幹事会で協議を重ねることにした。その後、2007年3月13日の定例幹事会において、討議事項として黒髪山キャンプフィールド隣接地の活動団体募集に関わる対応について提案されたが結論に至らなかった。4月3日の定例幹事会で、黒髪山森林整備作業の受託案件として討議された。古都保存法に基づき奈良県が買収した物件。山林の間伐、原野の草刈等、現状凍結保存の趣旨に沿った管理作業が求められる。現状を変更しない範囲での利用は自由。契約期間は2年間。多面的な討議の結果、当会の社会貢献事業の一つとし

て取り組むことを決定。5月3日、9名が参加して第1回の活動に着手。竹伐採、除草、椅子作り等、最低限のインフラを整える。

5月14日の通常総会において、川井会長から「新しい活動拠点として、県有林の古都景観保存法に基づく里山、山林・竹林の整備を佐保・奈良坂の地で取り組む。現地調査を実施し、活動プランの作業を進め、今秋から本格的な活動を始めたい」との決意表明があった。さらに、「地の利も良く、雑木林、未開の農地、柿・実梅の大きさが象徴的で、楽園作りの夢が広がります。皆さんの大人の居場所としてご参加をお待ちしています」と呼びかけられた。5月17日、奈良県担当者立ち会いの下に10名が参加して、Bゾーンにある畑予定地(現BC東隣の畑)の草刈り、果樹園あとの調査、対象里山林(現ならやま里山林)の植生を視察し、里山遊びや観察会に好適であると判断。昼食は採りたてのタケノコでバーベキューをし、今後の夢を語り合い大いに盛り上がったという。

以来、シニア自然大学校研修生を主軸として会員数は増加した。しかし、シニア依存から脱却し、地域住民の参画を推進しなければ、会の発展は見込めないのでは、との観点から地域への情報発信に努めるとともに、公開イベントを通じて会の活動への理解を深め、積極的に広報活動にも取り組むようになった。徐々にその成果が上がり、社会的認知度も高まっていた。その頂点とも言えるのが、平成29年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞である。また、朝日新聞「天声人語」の「知恵と経験は一万二千歳を超す」との市民目線による評価だ――。

いま、草創期に掲げられた3つの「会是」を再確認しておきます。①人の和②創造③実践です。170余人もの個性集団ですが、自然を愛するアイデンティティは共通のもの。たかがボランティアされどボランティアです。よそ見せず、禅でいう「我道一以貫之」の姿勢を大切にす1年にしましょう。